

環境フォーラム湖東 活動報告

第14回えこサロンを開催しました

1月31日(金) 19:00~21:00、愛知川公民館において本年度2回目のえこサロンを開催しました。

今回は、東近江市愛東支所の奥村清和氏から、「地域ぐるみの取組みとなった理由」～あいとうりサイクルシステムで軽トラが大活躍を！～と題して話題提供をいただきました。この話題提供に関して、あいのまちエコライフの堤昭子さんからのコメントを紹介いたします。

私たちの活動は、琵琶湖の赤潮の発生と共に始まりました。当時、旧愛東町では近畿1千4百万人の飲料水となっている琵琶湖の水を守るうとの機運が高まり、水環境推進活動が各字で推進され、その活動の中で琵琶湖に流入する水に含まれるリンに注目が集まりました。肥料とともに各家庭からの排水中の合成洗剤にも目が向き、「石けん運動」が動き出し、洗濯機を持って各字をまわり合成洗剤と石けんの違いを知ってもらうことから始めました。

その後、婦人会が中心になりピン・缶の分別回収活動に取り組み始め、自治会へも参加を呼び掛け、昭和59年以降は住民全員参加の活動として定着し、毎月1回の収集として続いています。

現在では、廃食油を活用しプラントで粉石けんを製造しているほか、廃食油を自動車の燃料として利用したり、もみぬか(籾殻)を土壌改良材として再利用しています。

今後とも、住みよい町づくりを目指して次代を担う子どもたちの手本となるよう、「継続こそが力なり」を合言葉に頑張っていきます。



湖東地域環境シンポジウム講演記録

「研究をして新しいことが分かった」ということは、研究者が調べて分かったことだけではありません。実は、私たちの身の回りにも様々な大発見が隠されているのです。2011年には私の中では大きなニュースがありました。今から30年ほど前に、ホトケドジョウという魚に似ていますが、形態も暮らし方も異なるナガレホトケドジョウという魚が四国・近畿地方にいることがわかりました。「滋賀県にもいるのではないかと」言われ、いろんな研究者が探しましたが、結局、見つけることができなかった魚です。そんな中、2011年8月に、県立大の私の研究室の後輩から「今観察会で高島市に来ているんですが、ナガレホトケドジョウらしき魚が・・・」と連絡が入りました。観察会で、当時小学4年生の男の子が魚を捕まえて「これは何の魚ですか?」と持ってきたそうです。最初は「そんなアホな」と思っていたのですが、後輩から送ってもらった写真を見たら本当にナガレホトケドジョウだったんです。それですぐ電話をかけて、その子の名前と住所を聞いておくように伝えました。これは大発見だ、ということで、それからきちんと調べて、正式に「滋賀県にナガレホトケドジョウが生息している」ということを確認しました。県内で在来種の淡水魚が見つかるのはおそらく数十年振りになります。それを見つけたのは我々研究者ではなく、小学4年生の男の子だったのです。本人やご家族にもこのことを伝え、報道機関にも公表して翌日には主要なテレビや新聞にこのニュースが出ました。その男の子は学校でヒーローになったそうです。最後には全国のニュースでも紹介されたようで、インタビューに答えていた私の姿を実家の母が見て電話がかかってきました(笑)。本当にそれぐらい大きなニュースだったんです。でも、それを見つけたきっかけというのは、この環境フォーラム湖東でもやっている自然観察会でした。皆さんが普段何気に見ているものが、実は滋賀県初めての記録、ひょっとしたら新種かも知れない、そんなことがまだまだあるかも知れないんです。もう何か全部見つけたりきっているような感じがするかも知れませんが、もしかしらこのカタツムリ調査とか、他に環境フォーラム湖東でやっている生きもの調査の中から大発見がでてくるかもしれません。調査や研究というのは、我々みたいに研究を職にしているものだけがやるのではなく、皆さんの身近な気付きや行いがきっかけとなることも多いのです。

*

また、皆さんが日常の暮らしで培ってきた経験や伝統的にその地域でされてきたこともものすごく大事なことなのです。しかし、それを科学の世界へもっていくことはなかなか難しく、いくら主張しても「科学的な根拠に欠ける」と認められないこともあります。でも本当はそうではなくて、生活の中の知恵とか地域で残されてきた知恵というのは科学で証明されるものだけではない、ものすごい価値を持っていて、学芸員というのはそういう地域の知識というものを科学の世界に持っていく存在だと私は思っています。逆に、科学の世界で分かってきたことを地域の皆さんに知ってもらうための役割も果た

ていると思うので、そういう中で私自身は上手く地域の生態系保全に学芸員として関わりたいと思っています。皆さんが身近な生きものを調べたり、観察することが、地域の環境を知ることだけでなく科学的な大発見につながることもあるかも知れませんが、地域の宝物を見つけてその宝物を皆で守っていくためのきっかけ作りにもつながっていると思います。カタツムリ調査のような参加型調査をきっかけに今後もいろんなものに興味を持っていただけたら嬉しいのですが、探していて「ちょっと変わった生き物だな」と思うことがあれば、是非その生き物の写真を撮って、それがいつ、どこにいたものなのかメモをとっておいて下さい。そうしてもらえると、後々でもどんな種類の生き物なのか専門の人に見てもらえますし、どこにいたのかという記録も残ります。そんな身近な生き物の観察や記録を通じて私たちの周りにおける環境に関心を持ってもらえたら幸いです。



環境フォーラム湖東では新規会員を募集しています

すでに環境に関する活動をされている方や、ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、企業・市民団体のみなさんまで、どなたでも参加していただけます。まずはお気軽に、左記事務局までご連絡ください。環境フォーラム湖東に関する詳しい情報をご連絡いたします。

発行:環境フォーラム湖東 (平成26年3月)
 ■ 〒522-0071
 ■ 彦根市元町4-1 滋賀県湖東環境事務所内
 ■ TEL 0749-27-2255 ■ FAX 0749-27-1688
 ■ URL http://www.f-koto.org/
 ■ E-Mail info@f-koto.org

環境フォーラム湖東情報交流誌



エコトピア

第23号

湖東地域環境シンポジウム開催

平成25年12月7日(土)、ピバシティ彦根で「湖東地域環境シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、身近な地域の環境への関心を高めていただくため、フォーラムが設立以来継続して開催しているもので、平成23年度から湖東定住自立圏環境事業として実施しています。

最初にフォーラムの仁連代表から、「子どもたちは、小さなときから多様な形で自然とかかわることで知能の発達に加え、豊かな情操を育むことができる。私たち大人の務めは、豊かな自然を子どもたちに残し、その中で子どもたちが育っていけるようにすること。フォーラムでの取り組みが少しでもそのような役に立つように、この地域での活動を続けていきたい。」との挨拶があり、開会しました。

午前中は、日本よし笛の会によるミニコンサートに続き、「湖東地域のカタツムリ調査」の表彰、滋賀県立琵琶湖博物館学芸員の金尾滋史さんによる講演を行いました。午後には、子ども向けの体験コーナーとして、廃食油を使ったエコキャンドルづくり、琵琶湖のよしを使ったプープー笛の工作、自転車による発電体験、消費電力を比較する省エネ実験、バックテストによる水質の簡易測定を行い、多くの親子連れの方に来場いただきました。

「湖東地域のカタツムリ調査」

平成25年6月1日から8月31日を調査期間として、滋賀県立琵琶湖博物館のご協力をいただきカタツムリ調査を実施し、提出いただいた調査報告のうち優秀な発見・観察についてシンポジウムで表彰させていただきました。

最優秀賞	馬場 有透 さん
優秀賞	馬場 重克 さん
	清水 瑛太 さん
	高尾 健翔 さん
特別賞	川分 智子 さん

カタツムリ調査に参加いただいた方の感想を紹介します。

- 馬場 有透 さん
- ・いろいろなところでカタツムリを探するのは楽しかった。
 - ・夏なのでなかなか見つけられなくて、お寺や神社に何回も通ったけれど、たくさんの種類を見つかることができたのでよかった。キセル貝やゴマ貝が見つけれずよかった。
 - ・やっぱり、車とかが少ない彦根城にはたくさんの種類がいたのがすごいと思った。
 - ・同じナミマイでも体に線があるのやないのがいたり、カラの色も少し違って種類を決めるのが難しかった。
 - ・カタツムリにたくさんの種類がいることや、僕らの家にもいることがわかってよかった。今度は伊吹山とかでレアなカタツムリを探してみたいです。

「湖東の環境活動展」

ピバシティ1階のセンターモールでは、12月3日から9日まで1週間にわたり湖東の環境活動展を行いました。これは湖東地域の環境ボランティア団体の活動を広く情報発信し、取り組みの輪を広げるために、シンポジウムの開催に合わせて行っているもので、フォーラムの団体会員を中心に10団体から出展いただいたほか、カタツムリ調査の報告、湖東定住自立圏推進協議会による緑のカーテンコンテスト受賞作品などについても展示しました。12月の土日を含んで展示したことで、多くの買い物客の方に立ち寄っていただき、各団体が取り組まれている多様な活動を広く紹介する機会となりました。



◇出展団体
 彦根市環境保全指導員連絡会議、愛荘町さわかみまちづくり推進会議、愛のまちエコライフ、NPO芦川、滋賀自然観察保全・学習ネットワーク湖東フィールドグループ、快適環境づくりをすすめる会、高宮の自然環境とホテルを守る会、泉エコーくらぶ、滋賀県立大学グリーンコンシューマースクール、世代をつなぐ尼子協議会

また12月8日(日)には、今回初めての取り組みとして、滋賀県立大学グリーンコンシューマースクールの皆さんによる買い物ゲームを行いました。これは家族と一緒に買い物に来た小学生に、ゲーム形式でエコバックの持参などを呼び掛けたもので、クイズを通して買い物をはじめ日常生活で取り組める環境に配慮した行動を親子で考えていただける機会になったものと思います。

湖東の生き物の仲間



ミスミソウ (キンボウゲ科)

和名は三角草で葉の形に由来する。落葉広葉樹林内で早春に白色又は淡紫色、1~1.5cmの花をつける。まだ雪の残っている頃、開花するので雪割草の名もある。春一番の花を探す時に、遠くでセピア色の中からこの白色を見つけると春の訪れを実感する。

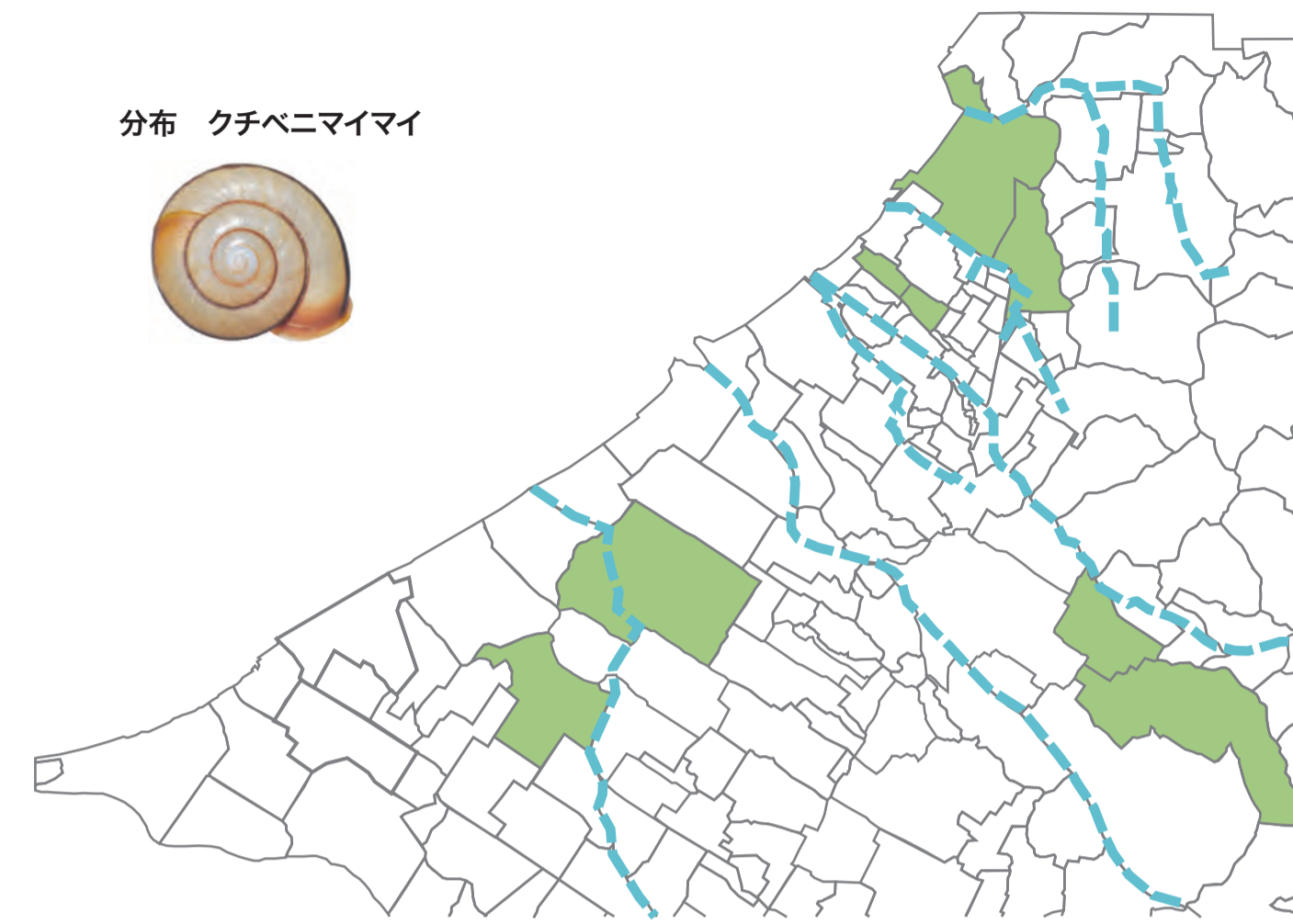


キクガシラコウモリ (小型コウモリ哺乳類)

多くは食虫で他、植物食、魚食、肉食のものもいる。眼は殆ど見えないので鼻から超音波を出して物の形、場所などを知る。3~4月に冬眠から目覚め、6月の末頃、出産期を迎える。毎年決まった洞穴に大きなお腹のメス達が集まり集団で出産する。9月には親と変わらないまでに成長し、11月~12月冬眠に入る。写真は多賀河内の風穴。

湖東の生き物調査 ～カタツムリ調査結果

種名	報告数
ウスカワマイマイ	3
クチベニマイマイ	10
オトメマイマイ	2
ナミマイマイ	10
ニッポンマイマイ	2
イブキクロイワマイマイ	1
ナメクジ	1
ナミギセル	4
ナミコギセル	2
イセノナミマイマイ	1
マルシタラガイ	2
タワラガイ	1
カサキビガイ	1
キビガイsp	1
ナガオカモノアラガイ	1
ツルガマイマイ	1
ニッポンマイマイ	2



分布 クチベニマイマイ



分布 ナミマイマイ



主催 環境フォーラム湖東 協力 滋賀県立琵琶湖博物館

団体紹介 太田川「夢の会」

太田川「夢の会」は、美しいふる里の川づくり、多くの生き物が生息する川づくり、子どもたちが安心して遊べる川づくり、区民の環境意識の高揚と会員相互の交流を深めることを目的として平成16年に発足しました。
 夢の会では、毎月1回、多賀大社前を流れる太田川のごみ回収・除草作業と、多賀区内の環境整備活動として花菖蒲や睡蓮の植栽・育成管理を継続して行っており、最近では、ホテルの観察会や小学生による生き物調査と魚つかみ体験なども実施しました。また、今年の夏には親子魚釣り大会の開催も予定しています。
 これまで活動を続けてきて、区内の環境整備に貢献できたことと、水質浄化により多くの生き物が生息する太田川になったことを喜んでいます。
 今後とも、川は文化のパロメーター、美しい川・きれいな川を子どもたちに残すため私たち大人の役割は大きいとの思いを持ち、活動を続けていきます。

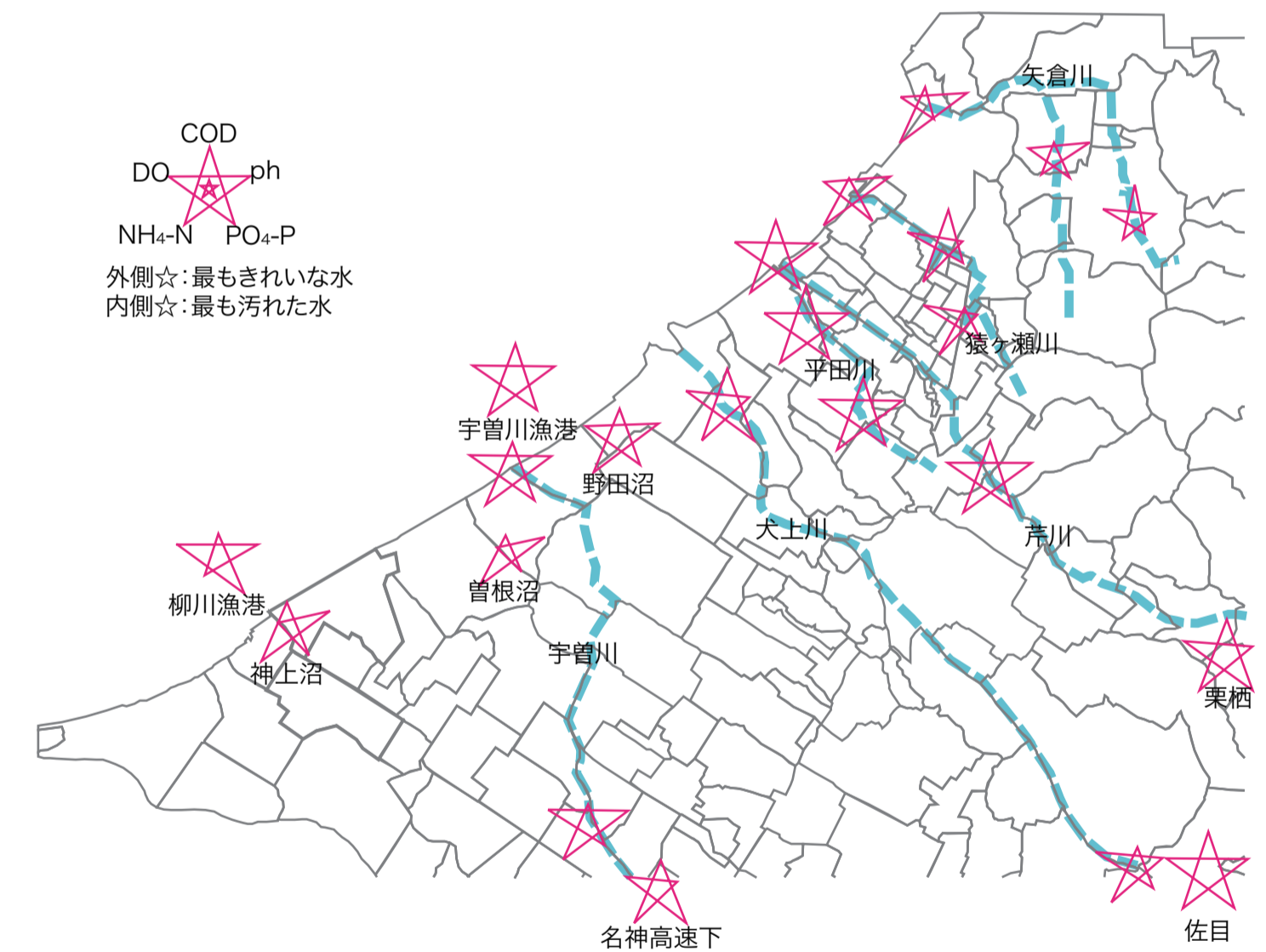


第5回湖東の水環境調査

環境フォーラム湖東では「身近な水環境の全国一斉調査」に参加していますが、それにあわせて特定の地点を定め「湖東の水環境調査」を実施しています。
 調査項目は「身近な水環境の全国一斉調査」で気温、水温、CODバックテストを実施していますが、「湖東の水環境調査」では それに加えてPH、バックテストによるりん酸、アンモニウムそしてDO(残存酸素)を測定しています。
 そしてその結果を国土交通省近畿技術事務所考案の「☆型簡易水質調査シート」を用いて評価しています。このシートは調査結果が☆型に示され、大きい☆ならきれいな水で、小さい☆やびつな形の☆なら汚れた水であることが分かるというものです。

基準日	2013年6月2日(日)	
調査地点	湖東地域の河川、水路、内湖など 「身近な水環境の全国一斉調査」 「湖東の水環境調査」	167地点 22地点

- 宇曾川
CODは上流から数値の高い川といえます。なおNH4、PO4は低いレベルにあります。CODについて他の測定結果において、宇曾川以南の河川水路では高い傾向にあります。
- 犬上川
今回富之尾(金屋)でCODが高く測定されていますが、過去の結果や下流のデータから一時的なものと思われます。
- 平田川
この川は投棄物が多く見られますが、水質は数値上良好と判定されます。
- 芹川
上流のきれいな水がそのまま下流に流れ下っています。
- 猿ヶ瀬川・港湾
彦根市街地の中心部や外町から地蔵町にかけての下水道未施工区域の排水が流れ込んでいて汚れた川といえます。下流域で浄化センターの処理水を受け入れていてそのために水温が高いためかブルーギルなどの集まりやすい場所になっています。



COD
DO ★ pH
NH4-N PO4-P
外側☆:最もきれいな水
内側☆:最も汚れた水

団体紹介 滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル

こんにちは! 私たちは滋賀県立大学のグリーンコンシューマーサークルです!
 設立は1997年、今年で設立17年になる私たちの活動目的は『グリーン購入』を普及することです!

『グリーン購入』とは…?
 買い物をするときに環境に配慮した購入を行うこと

- 活動内容
- ・エコ講座PJ:小学生を対象にグリーン購入の知識をひろめる
 - ・エコ通学PJ:環境に配慮した通学(自転車・バス)の提案
 - ・ひこね読本PJ:地産地消、サークルの紹介
 - ・節電PJ:涼しい場所・暖かい場所をみんなで共有することによって節電するクールシェア・ウォームシェアの提案
 - ・生協PJ:県大生協にてエコ商品の販売促進 レジ袋削減の呼びかけ

Mail : info@guricon.net
 HP : http://guricon.net
 Twitter, facebookもやっています! 『グリコン』で検索!

- 矢倉川
本流の上流ではうつくしく COD、NH4のやや高い小野川が流れ込み、次いで米原市からの水路の合流もあって、河口においてCODが高く、NH4、PO4は低い状態にあります。
- 柳川漁港・宇曾川漁港
CODは柳川漁港で悪く、宇曾川漁港ではびわ湖並みの良好な結果でした。
- 内湖
CODはいずれも高い状態にあり、悪い方から曾根沼、神上沼、野田沼の順になります。なかで曾根沼、神上沼のDOが低いのが特徴です。
 神上沼において外来植物のナガエツルノゲイトウが岸辺で散見されました。

